

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)	
事業名	先端国際共同研究推進事業/プログラム			担当部局庁	科学技術・学術政策局		作成責任者
事業開始年度	令和4年度	事業終了 (予定)年度	未定	担当課室	参事官(国際戦略担当)付		参事官 (国際戦略担当) 大土井 智
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	第6期科学技術基本計画(令和3年3月26日閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2023(令和5年6月16日) 成長戦略等のフォローアップ2023(令和5年6月16日)		
政策	政策7 Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策			主要経費	科学技術振興費		
施策	施策7-3 科学技術の国際活動の戦略的推進						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221215-mxt_kanseisk01-000026547-22.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	欧米等先進国やASEAN地域との国際共同研究を通じて、国際頭脳循環の推進に取り組む。欧米等先進国との連携においては、国際科学トップサークルへの日本人研究者の参入を促進するとともに、両国の優秀な研究者の交流・コネクションの強化も図ることで国際頭脳循環を推進し、長期的な連携ネットワークの構築に貢献する。加えて、ASEAN地域とは、国際共同研究や人材交流・育成など、幅広い取り組みを通じ、国際共同研究や持続可能な研究協力関係を強化する。						
現状・課題 (5行程度以内)	近年の地政学的変化を受け、我が国は国際共同研究の相手国として、欧米等先進国から高い期待が寄せられている。一方、国際共著論文数が諸外国と比べて相対的に低下、研究者交流の停滞など、現在、我が国は世界の国際頭脳循環のネットワークの中に入っていない。その要因としては、①既存の国際共同研究の枠組みの規模・支援期間が十分ではなく欧米等先進国が実施する規模の国際共同研究には対応できていない、②日本人研究者の国際科学トップサークルからの脱落、若手人材の育成機会の損失の2点が考えられる。 また、地政学的変化やインド太平洋地域の安全保障など外交的視点から、ASEAN地域との関係強化が一層重要になっている。 上記を踏まえ、G7を中心とした先進国やASEAN地域との戦略的な国際共同研究等を通じた国際頭脳循環を強化する。						
事業概要 (5行程度以内)	我が国と共同研究相手国のファンディングエージェンシーと協働しつつ、課題単価(最大1億円/年・課題程度)や支援時期等の柔軟な設定をすることで、より戦略的・機動的な国際共同研究を支援する基金を令和4年度補正にて造成。これにより、高い科学技術水準を有する欧米等先進国を対象として、政府主導で設定する先端分野における大型国際共同研究への支援を行う。 加えて、ASEAN諸国の科学力等を踏まえつつ、相手国ニーズに応じた柔軟かつ重層的な取り組みを実施する。						
事業概要URL	https://www8.cao.go.jp/iryou/council/20230210/pdf/sankou3.pdf						
実施方法	補助						
補助率等	-						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	-	-	-	100	1,030
		補正予算(B)	-	-	50,050	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	
		予備費等(E)	-	-	-	-	
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	50,050	100	1,030	
	執行額(G)		-	-	50,050		
	執行率(%) =(G)/(F)		-	-	100%		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		-	-	100%		
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)	研究開発推進費			インド太平洋地域の安全保障等、様々な観点から地政学的にも重要な地域であるASEAN地域との関係強化がより一層重要となっていることを踏まえ、ASEAN地域との科学技術協力の強化を新たに盛り込んだため。 重要政策推進枠 1,030百万円		
	(目)	先端国際共同研究推進基金補助金	100	1,030			
		その他	0	0			
	計(A)		100	1,030			

活動内容① (アクティビティ)		高い科学技術水準を有する欧米等先進国を対象として、政府主導で設定する先端分野における大型国際共同研究への支援を行う。国際科学トップサークルへの日本人研究者の参入を促進するとともに、両国の優秀な若手研究者の交流・コネクションの強化を図り、国際頭脳循環の推進及び長期的な連携ネットワークの構築を図る。									
↓											
活動目標及び活動実績① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		国際共同研究の抜本的強化	研究課題数	活動実績	件	-	-	-	-	-	
				当初見込み	件	-	-	-	57	105	
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	本事業は、大型国際共同研究への支援を通じて、両国の優秀な若手研究者の交流・コネクションの強化を行うことで、支援した各研究課題に基づいた研究者の交流が促進されと考えられるため。									
成果目標及び成果実績①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 9 年度		
		事業を通じた世界トップレベル研究成果の創出	本事業を通じた海外への研究者の派遣者数	成果実績	人	-	-	-	-		
				目標値	人	-	-	-	200		
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		成果指標2つ目:本事業を通じた海外からの研究者の受入れ者数 成果実績:-、目標値:100人、達成度:- 国立研究開発法人科学技術振興機構調べ、国立研究開発法人日本医療研究開発機構調べ									
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	本事業を通じて、研究者の交流が促進され、日本人研究者の国際科学トップサークルへの参入が図られることで、長期的には、国際共著論文数の増加につながると考えられるため。									
成果目標及び成果実績①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 11 年度		
		我が国における世界トップレベル研究成果の創出	本事業を通じた国際共著論文数	成果実績	本	-	-	-	-		
				目標値	本	-	-	-	230		
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		国立研究開発法人科学技術振興機構調べ、国立研究開発法人日本医療研究開発機構調べ									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
		-									
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									
		-									
		-									
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等	名称	-									
	URL	-									
	該当箇所	-									

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)



